

東日本大震災

オーストラリアで
リスクマネジメントを考える

仙台市太白区 65 歳 女性

誰も予期できなかった地震、津波の高さ。1,000 年に一度と言われた今回の地震で失われたものは、あまりにも多い。尊い命を思うとき、防ぎようが無かったのかと本当に残念に思います。原発の被害も一進一退を繰返しながら、まだ落ち着きません。早く良い方向に向かって欲しいと願うばかりです。

仙台市太白区 36 歳 女性

今回の地震は、今まで経験したことのない揺れで、とても大きく、恐ろしかったです。地震の最中、これで終わって、と祈るような気持ちでした。家財道具を含め、家が無事だったことは、幸運でした。他県の友だちから、励ましのメールや電話をもらいました。ありがたかったのは、北海道の友だちが、真っ先に安否確認のメールをくれ、更に支援物資を送れるのがレターパックだけであることを伝え、必要な食糧品などを送ってくれたことでした。新潟の友だちも、旦那さんが仙台に出張に行くついでにと、私たちに支援物資を届けてくれ、みんな自分のことのように心配してくれました。もし、私が逆の立場だったら、そのように気の利いた支援ができたであろうかと考えました。今後は、このように人の痛みがわかちあえるような人間になりたいと感じました。

仙台市太白区 53 歳 女性

幸い私たちの家族や親戚は無事でしたが、友人の中には家族を亡くしたり、非常に辛い状況にいる方がたくさんいらっしゃいます。そういった現実を知って、改めて命の大切さ、当然だと思っている日常は当たり前ではなく、すごいことなんだと心から思いました。

仙台市泉区 38 歳 女性

ご家族や大切な方を亡くされた方々の痛み（きっとわかってあげられない）。実際には自分の事だけで精一杯で、何も役に立てなかったと、やりきれない思いです。しかし、色々な人たちが募金や物資の援助、節電など、たくさんの協力をしてくれているという現実を見て、日本はまだまだ捨てたもんじゃないなあ、と改めて思いました。

仙台市太白区 57 歳 男性

自然の脅威を改めて実感しました。私たちは便利な生活を維持するために、ときに自然に逆らって生活をしていますが、今回のような大災害などがあると、全く太刀打ちできません。自然に逆らうのではなく、自然に与えられるもので生活することの大切さということを考えさせられました。

仙台市青葉区 26 歳 女性

ぶつけようのない悔しさがこみ上げてきます。メディアを通して知る現状は凄まじ過ぎて、自分自身の状況よりもっと辛くて、とても易々と言葉にはできません。地震は怖い。本当に恐ろしい。ですが、この震災を通して私はたくさんの優しい心に触れることができました。ありがたいと感じる場面が多くありました。この生かされている、そして恵まれた状況に導いてくれた周りの人たちに対して感謝の気持ちでいっぱいです。辛いことばかりではないと思いました。そして、時間の経過と共に自分に少し余裕ができて、被災者である自分が支援者になれることをすごく幸福だと思っています。こんな大切なことに気づかせてくれた震災は、日本の人々をもっと強く、優しく成長させてくれるものになるのではないかと前向きに考えています。

仙台市太白区 29 歳 男性

豊かで便利な生活に慣れている自分にとって、こういった災害は正直、精神的・身体的にダメージが大きかったです。『ライフライン』はその名の通り、命を繋ぐために必要不可欠なものであると実感しました。

10 歳 姉妹（姉）

電気がついて、とてもうれしかったです。電気や水、食べ物の大事さがわかりました。もし、また地震が起きるようなことがあれば慌てず避難したいと思います。

8 歳 姉妹（妹）

まだ余震が続いていて怖いです。もう地震が起きないと思います。